

平成 29 年 1 1 月 2 1 日

時 分 受 理

受付順位

発言順位

## 発 言 通 告 書

藤枝市議会議長 西原明美 様

藤枝市議会議員 2 番 平井 登 ⑩

次のとおり通知します。

発言の種類

代表質問

**一般質問**

緊急質問

1. 標 題

**鳥獣被害対策の新たな展開と住民捕獲チームの編制を！**

答弁を求める者 ( 市長・担当部長 )

( 要旨・内容 )

今回の質問内容は、平成 28 年 1 1 月議会において一般質問しました「拡大する野生鳥獣被害の新たな対策について」のご答弁を踏まえて、その後の当局の新たな施策とその取り組み状況および検討を続けられているジビエ事業の実現性を伺うものであります。以下 5 点について、ご答弁をください。

- ( 1 ) 現在本市には、何人の狩猟免許取得者がおり、その内今年度の狩猟者登録をされた方は、直近で何名おられるか地区別 ( 学区 ) ・免許種別に伺います。
- ( 2 ) 設置を検討されている『鳥獣被害対策実施隊』について、本市の実情に即した体制整備をすることですが、本市の実情 ( 課題・問題 ) をどのように捉えているか伺います。
- ( 3 ) 本市の実情に即した『鳥獣被害対策実施隊』の計画概要 ( 目的・役割・編制・設置時期等 ) を伺います。
- ( 4 ) 捕獲実績を上げるには、免許取得者を中核とした地域ぐるみの取り組みが必要と考えます。『鳥獣被害対策実施隊』はその場合、どのような役割と機能を発揮されるか伺います。
- ( 5 ) JA 大井川を主体としたジビエ事業の検討が、関係する組織・機関等により進められていると思いますが、現在の協議状況を伺います。

2. 標 題

がんばる農業者への支援に農業振興事業基金の活用を！  
答弁を求める者 ( 市長・担当部長 )

( 要旨・内容 )

農業従事者の高齢化や後継者不足による農業の衰退が進む一方で、やる気ある経営者の果敢な事業投資や若手専業農家の活躍、高収益な作物への転換などによる営農改革によって、本市農業は新たな次元に着々と向かっている力強さを感じております。また、農業生産法人設立による経営合理化、農地集積による作業効率化、施設園芸による生産安定化、有機無農薬栽培による食の安全化など、新たな経営スタイル、農業スタイルへと自己変革されている農業者には頼もしさとともに心から敬意を感じているところでもあります。

本市が未来永劫にわたって発展するためには、農林業の持続・承継はもっとも大切であり、こうした農業者の積極的な取り組みを支援することこそ行政の重要な役割であると考えております。

そこで、以下2点について伺います。

(1) 本市の基幹産業である茶業において、共同製茶工場の淘汰と清算がこの数年でなされ、新たな編成や法人化の動きが進められておりますが、本市農業全体の持続・承継を推進するためには、南部地域を含め、地域農業の中心的な経営体を育てあげ、「稼ぐ農業」への改革をさらに前進させる支援策が必要であると考えます。今後の農業振興において、やる気ある農業者や後継者を確保・育成していくための支援策があるか伺います。

(2) 本市農林業の将来に活用すべく平成9年に設けられた『地域農業振興事業基金』については、平成28年度決算残高が約8億円あります。この基金を今こそ農業振興への支援に使うべき時期だと考えますが、その活用方法について、具体的なお考えがあるか伺います。

## 3 標 題

今川義元・生誕 500 年を契機に地域イベントの創出を！  
 答弁を求める者 ( 市長・担当部長 )

## ( 要旨・内容 )

今川義元は永正 16 年 (1519 年) に生まれた本市との関係がたいへん深い戦国大名であります。とりわけ、“花蔵の乱” (天文 5 年・1536 年) によって今川家 9 代当主の座を得たことはよく知られています。

本市は、この“花蔵の乱”の決戦舞台となっており、花倉城 (葉梨城) 周辺には、近年の城郭研究成果により勝者となった義元軍の付城 (陣場) と推定される遺構や敗者の玄広恵探ゆかりの史跡も多々確認されております。また、乱の第一功労者である岡部親綱の朝日山城跡や朝比奈氏の朝比奈城跡、義元の軍師・太原崇孚雪斎の菩提寺 (長慶寺) もあるなど、本市の中世史を語る上で、また乱の真相を究明する上で欠かすことのできない貴重な歴史資源とロマンが充実しています。

そこで、来年 2018 年の義元生誕 500 年をきっかけとした新たな地域活性化事業の創出を提案したいと考え質問をいたします。以下 3 点につきましてご答弁ください。

(1) 本年 6 月 2 日から 7 月 17 日まで開催されました「戦国大名今川氏展」の成果と評価 (観覧者数・反響・感想等) を伺います。

(2) 市内の文化団体の中には、“花蔵の乱”をはじめ今川氏に因む事件、事歴を題材にした太鼓や詩吟、演舞、蹴鞠 (サッカーの原型)、茶道など世代と地域を交えた活動が行われて来ています。こういった今川氏に関連する文化活動を一堂に集めて、また、“花蔵の乱”史跡ウォーキング、さらには合戦をイメージさせる競技を地区対抗戦で行うなどとした本市ならではのイベントが企画できると考えますが、当局ではそのような視点での構想を描かれているか伺います。

(3) 中山間地域、とくに瀬戸谷、葉梨、朝比奈地区の少子高齢化により、かつて各地区で行われていた区民体育大会がほとんどグラウンドゴルフ大会に代わってしまい参加者も普段グラウンドゴルフをやられている高齢者に偏る傾向も強く、世代間交流事業は盛り上がり欠ける状況になっていると感じております。

浜松市天竜区水窪町と長野県飯田市南信濃の境である兵越峠において、30 年前から行われている「峠の国盗り綱引き合戦」のように、“花蔵の乱”にちなんだ新しい競技を創出することで本市の歴史文化、観光文化、地域文化が一段と輝きを放ち、交流人口の増加や地域活力の再生につながると考えますが如何でしょうか。

(※ 内容は詳細に記入してください。)